

ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム（HFSP）事業に関する
アンケート調査結果の概要

1. アンケート調査方法

調査対象者にアンケート票を送付し、現在得られているデータを集計した。

調査対象者

- ・採択者：HFSP の助成を獲得した日本国籍の研究者
- ・関係者：制度の運営に携わった事務局関係者やピア・レビューア一等の関係者
- ・非助成対象機関：企業等の直接の助成対象となっていない機関の研究関係者

2. アンケート結果

（1）目的及び政策的位置付けについて

- ①本制度の認知度：（非対象機関）「知っている」または「聞いたことがある」が約 6 割を占めた。
- ②本制度を知ったきっかけ：（全体）「HFSP に応募をした研究者から聞いた」、「他の研究者から聞いた」、「HFSP の HP を見た」、が多かった。
- ③制度の目的から考えて国が行うにふさわしい制度か：（全体）ほとんどがふさわしいとした。
- ④本制度を必要とした理由：（採択者）「海外との共同研究を積極的に進めたい」、「基礎的研究や成果達成に対するリスクのある研究には外部の競争的資金が必要」の理由が多かった。
 - ・本制度がなかったと仮定した場合の想定：（採択者）「他の公的研究制度に申請し、もし採択されればその制度により、もし採択されなければ研究を断念」が最も多く、「他の公的研究制度に申請し、もし採択されればその制度により、もし採択されなければ自己資金で研究を行った」、「自己資金で基礎研究を行っていた」が続いた。
 - ・「自己資金で研究を行っていた」とした回答者に、その場合に想定される状況を聞いたところ、多くの回答が「基礎研究に何らかの支障が生じただろう」とした。
 - ・その内容は、「研究の目的が達成できない可能性があった」が 7 割近くを占めた。
- ⑤本制度を選択した理由：（採択者）「国際的評価の高さ」、「海外との共同研究」、「補助金額」の回答が多かった。

（2）制度の目標について

- ①目標の妥当性：（全体）ほとんどが適切とした。

（3）成果、目標の達成度について（採択者）

- ①テーマの分野：（採択者）生物学系が約 9 割を占め、次に医歯薬系、物理・生物物理系が多か

った。

- ②研究テーマの目標達成度：(採択者) 8 割近くが「達成」また「ほぼ達成」とした。
- ③成果の高さ：(採択者)「招待講演など発表の場が増加」、「著名な雑誌に掲載」とした回答が多かった。
- ④本制度を利用するインセンティブ：(全体) 9 割近くが高いとしている
- ⑤本制度を利用する阻害要因：(採択者)「申請書を英語で書く」、「助成金額が少ない」、「海外の研究共同先の選定が困難」「海外共同研究者とのコミュニケーションに資金と労力がかかる」、「助成期間が短い」とする回答が多かった。

(4) 事業化、波及効果について

- ①助成期間が終了した後の研究の継続：(採択者) 6 割以上が資金を得て研究を継続している。
- ②研究資金の種類：(採択者) 科研費、文科省・JST 事業とした回答が多かった。
- ③上の資金を何で知ったか：(採択者)「所属機関の関係部署の紹介」、「ホームページ」が多かった。
- ④既に生じている学術的な波及効果：(採択者)「海外の研究者との協力関係強化」、「基礎科学の新知見を発見」、「研究の継続に弾みがついた」、「国内研究者や外部機関とのネットワークの広がり」、「研究者の育成に貢献」が多かった。
- ⑤研究の応用研究・事業化への波及：(採択者) 事業化、事業化取組中約とした回答は少なく、取組なしが約 8 割を占めた。
- ⑥事業化の取組なしの理由：(採択者)「基礎研究に特化し事業化は視野にいれていない」とした回答がほとんどであった。
- ⑦応用研究や事業化に結び付ける際の問題点 (採択者) として、以下の理由が寄せられた
 - ・更なる継続研究グラントの設立
 - ・基礎科学の充実がこれまでの HFSP の成功であるならば、今後も特に事業化を目標とする必要はない。
- ⑧助成を受けた研究の産業化へのイメージ：(採択者)
医薬品は約 77%、医療機器はそれぞれ約 24%であった。

(5) マネジメント・体制等について

- ①制度のスキーム：(採択者) 全員が適切とした。
- ②予算規模：(採択者) 3 割以上が不足したとしている。
- ③支援期間：(採択者) 3 割以上が短すぎるとしている。
- ④公募プロセス：(採択者) ほとんどの回答が適切としている
- ⑤テーマの採択審査プロセス：(採択者) ほとんどの回答が適切としている。
- ⑥制度全体の実施体制・運営について：(採択者) 3/4 が適切としている。
- ⑦ご担当の研究の実施について：(採択者) ほとんどの回答が適切としている。

(6) その他

寄せられた意見の例

①本制度を経済産業省が活用する在り方

〈課題〉

- ・ 研究機関は7年が妥当で、それより短くては大きな成果は得られにくい。

〈今後のあり方〉

- ・ 国際的な研究助成制度として継続してほしい。
- ・ 今後も本制度を積極的にサポートして頂きたい。
- ・ 応用や事業化と全く関係無くすべきである。

②その他

- ・ 基礎研究を支援する他に類を見ない素晴らしい研究助成制度である。
- ・ 受賞する者にとって HFSP はまたとない自由研究の機会。政府が本事業を将来も継続していくことを望む。
- ・ 応用研究への出口イメージが先行し過ぎると、独自性や国際的に極めて高い評価が失われかねないのではないか。
- ・ 日本人の採択数を増やす工夫をすべき。

3. 課題と対応策（案）

現在の課題	対応策（案）
①「本制度を知ったきっかけは HFSP に応募をした研究者から聞いた」とする回答が最も多かった	HFSP0 事務局等からの広報活動の強化を働きかける
②「本制度がなかったと仮定した場合、他の公的研究制度に申請し、もし採択されればその制度により実施するが、もし採択されなければ研究を断念したであろう」とする回答が最も多かった	他の助成制度を設置するかどうかを検討する
③支援規模が少なすぎる	支援の増額の検討を HFSP0 に働きかける
④支援期間が短すぎる	支援機関の延長を HFSP0 に働きかける
⑤日本人研究者の採択数を増やす工夫をすべき	応募者数を増やすべく、HFSP0 事務局等からの広報活動の強化を働きかける